



# こうべ森の学校だより

## No.88

## 2019年7・8月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

### 再度山永久植生保存地調査

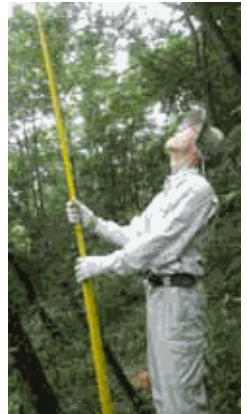
齊藤 豪



再度山永久植生保存地調査が7月27日・28日の2日間にわたって実施されました。

された植生調査に、こうべ森の学校のスタッフが協力しました。

調査は10m四方と2m四方のコドラート内の植生について、1本ずつ種類、単独及び株立ちの本数、樹高、被度を記録していきます。



7月27日は雨天の中での調査、28日は雨は上がったものの、高温多湿に中での調査となりました。

コドラートは山の斜面に条件を変えて、設定されており、少し離れただけで、随分と林相や植生が変わるのに驚きました。ネザサに交って、フタバビコスズやヤマツツジなど多くの植生が確認できました。地味に見える調査ですが、45年間の植生の移り変わりのデータは貴重なものです。5年後の2024年は50年目の節目の年です。地球温暖化や外来生物の影響などにより、どのような植生になっているか、とても興味深いところです。

コドラート内を調査しています この調査は、群落の諸性質や土壌を調査、記録し、六甲山系の緑の管理や育成に役立てていくことを目的として、1974年6月から5年に1度定期的実施しているものです。詳しくは、こうべ森の学校だより60号(2014年10月19日発行)をご覧ください。



45年目の今回も、神戸大学名誉教授の武田先生と県立人と自然の博物館の橋本先生が中心になって実施

場所によっては20種類以上も



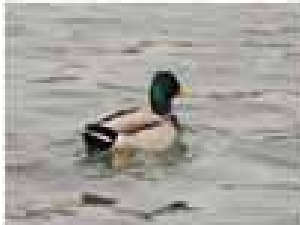
7月13日 例会の集合写真

## 六甲山系の野鳥

村瀬 眞一郎

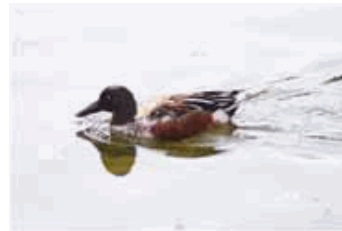
池や川でよく見られる水辺の鳥について紹介します。六甲山系やその近辺では、鳥原貯水池、小野市の鴨池や三田市の有馬富士公園（福島大池）へ、冬場に行けば多くの種類を見ることができます。山野の鳥と違って、水面に浮かんだり、ゆっくり進んだりしますので、写真は撮り易いです。

カモ科の野鳥の雌雄はかなり異なっていますので、雄の写真だけを載せています。こうべ森の学校だよりNo.63」でガルガモ、「No.64」で下記の野鳥について紹介しました。今回はその後に撮影した野鳥についても紹介します。



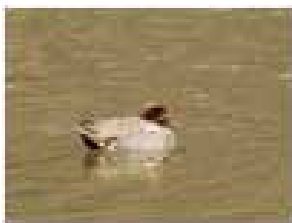
[マガモ]

雄の頭は緑色、体は灰色、胸は茶色、嘴は黄色、足はオレンジ色をしています。雌は全体が茶色です。



[ハシビロガモ]

嘴は黒く先端が幅広い、これが名前の由来です。雄の顔は緑色、胸は白、わき腹が茶色、目は黄色です。雌は全体が茶色です。



[コガモ]

雄の頭は茶色、目の周辺は緑色、体は灰色、嘴と足は黒色をしています。雌は全体が褐色です。



[カワアイサ]

雄は顔が濃い緑色、頸から脇は白、背中は黒、尾は灰色です。雌の頭は茶色で全体が黒っぽいです。珍しく福島大池で見ました。



[ヒドリガモ]

雄の頭は茶色、頭頂部は白色、体は灰色、嘴と足は鉛色をしています。雌は全体が濃い褐色です。



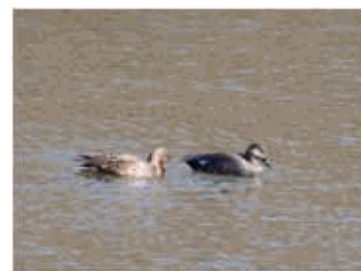
[ホシハジロ]

雄は顔が茶色、胸は黒、背中は灰色、嘴の先端は黒です。雌は頭から胸は茶色です。カイツブリのようによく潜ります。



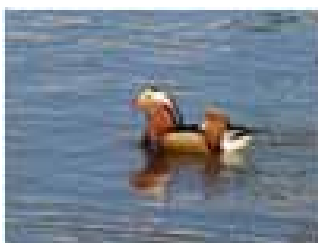
[オナガガモ]

雄の頭は黒褐色、胸は白色、後頭部は灰色の縦線、体は灰色、嘴は青灰色をしています。雌は全体が褐色です。



[オカヨシガモ]

雌雄が写りました。雄は他のカモに比べて地味です。嘴とお尻が黒色です。雌の嘴はオレンジ色です。



[オシドリ]

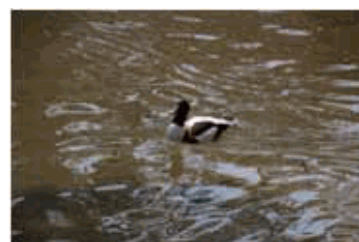
雄は美しい複雑な模様をしていますので、すぐにわかります。雌は全身が灰褐色です。仲の良い夫婦は「おしどり夫婦」と言いますが、

実際は毎年相手を変えているそうです。



[キンクロハジロ]

雄の脇と腹は白色、体は黒色、嘴は青灰色をしています。雌は全体が黒褐色です。



[ツクシガモ]

雌雄ほぼ同色です。顔は黒色、体は白で背中から胸に栗色の帯があります。嘴は赤で上に反り上っています。関西では

あまりみられません、王子動物園で飼われていました。

## 東日本大震災祈念碑の寄贈

木下 英吉



除幕式

東日本大震災が発災後の2011年3月19日、阪神・淡路大震災時に全国から多くの支援を受けた想いで、被災地で最初に支援を受け入れた宮城県松島町に、兵庫県から知事や医療関係者・ボランティア等が共に入りました。以降、現在も宮城県内で支援活動を続けています。

2016年9月、震災を風化させないよう、最初に支援活動で入った同町に、兵庫県内ボランティア有志3名で「東日本大震災 鎮魂と復興への祈念碑」を寄贈しました。

今年、沿岸部のかさ上げ等震災復興事業が完了したため、松島公園内に建立され、6月21日に、町長を初め関係者が臨席する中、除幕式が執り行われました。終了前には、地元保育園児24名一人ひとりからのお礼のメッセージが書かれた色紙も、全員で手渡されるサプライズも。

震災を忘れない・後世に伝承していくためにも、この地を訪れる多くの方々の目に留めていただくことを願うしだいです。



鎮魂と復興の祈念碑



保育園児から御礼

## くらしの防災フォーラム

斉藤 豪



6月29日(土)午後6時30分から午後8時まで、東灘区民センター「うはらホール」にて「くらしの防災フォーラム～土砂・洪水氾濫に関する防災講演会～」(主催:国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、神戸市)が開催されました。



久元神戸市長

冒頭、主催者を代表して久元神戸市長から、神戸市の防災への取り組みについて、続いて来賓の方から昭和13年の阪神大水害、平成7年の阪神大震災の教訓についてお話がありました。

地元の取り組み紹介として、魚崎町防災福祉コミュニ

ティの活動について石島副会長より、阪神大震災の教訓から、自発的に立ち上がり、地域住民避難訓練、応急給水訓練、災害時要援護者支援避難訓練、市民救命士講習、小学生の防災学習及び訓練を実践していることをお話いただきました。



また国土交通省近畿地方整備局の黒川局長から「災害から命を守る取組み」と題して、近年の災害について、特に神戸市と六甲山における大規模土砂災害の発生状況とそれに対する取り組みについて、詳細なお話を聞かせていただきました。

最後に立命館大学工学部環境都市工学科の里深教授から「豪雨災害から身を守るために今できること」と題して、土石流やがけ崩れの発生メカニズム、そして日頃からどういう対策をしておかなければならないのか、わかりやすくお話いただきました。

今回のフォーラムには、周知期間が短かったにも関わらず400名以上の市民が集まり、関心の高さを示していました。災害はいつか必ずやってきます。「災害を知ること」被災する前に「行動をすること」が、被害を最小限にすることが可能だと思われま

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
6月16日(日)	49名	中里 勲さん	12名	9名	10名	5名
7月13日(土)	38名	米山 充子さん	5名	11名	6名	6名

東お多福山の活動



武田先生と橋本先生

7月17日(水)東お多福山草原保全・再生研究会の活動に参加しました。春の外構の笹刈りで手付かずの部分の刈り取りを行いました。日差しはきつかったですが、木陰は涼しく過ごしやすい天候でした。この日は武田先生もお見えになり、植生調査を通じて、地道な笹刈りの成果で生物多様性が一歩ずつ前進していることに手ごたえを感じておられました。

六甲山の災害展



3ページの「くらしの防災フォーラム」に関連して、「六甲山の災害展」が8月14日(水)から25日(日)までHAT神戸の「人と防災未来センター」にて開催中です。入場無料です。是非お越しください。

お知らせ・掲示板

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回の開催予定日は9月29日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次回の開催予定日は9月28日(土)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 9月14日(土)・10月20日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後には自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記 再度山永久植生保存地調査の支援依頼があり、「確か、ついこの前やったと思うけど・・・」と思いつつ、調べてみると2014年7月～9月に実施していました。記憶があやふやな自分に情けないと思いつつも、これも人間の性なのではないでしょうか。災害の記憶も歳月を重ねると薄れてしまうと云いますが、しっかりと記憶して、被害を最小限にとどめるために、何をすべきか後世に引き継がなければならないと思います。(斉藤 豪)

